

## 製造業：作業グループ 第1回の概要報告

- ・日時 平成 21 年 1 月 22 日（木） 13:30～16:30
- ・場所 丸ビル 8 階 コンファレンススクエア Room 2
- ・出席者 製造事業者 12 社、出席人数 13 人

### <議事次第>

1. 本日の議題と資料の説明
2. ディスカッション①：「協働の着眼点（第1版）」の位置づけについて
3. ディスカッション②：協働の着眼点〔業態横断版〕について
4. ディスカッション③：協働の着眼点〔業態別〕について
5. まとめ、事務連絡

### <議事>

今回の製造業：作業グループでは、「協働の着眼点（第1版）」の位置づけや構成について、また、フードチェーンをまたがる〔業態横断版〕と、食品の製造、卸売、小売という業態ごとの〔業態別〕からなる「協働の着眼点たたき台2次案」について参加者の皆さんに説明し、議論を行いました。

「協働の着眼点（第1版）」の位置づけについては、「意欲的な事業者が自主的に集まって、消費者や取引先などの関係者に自らの取組のどのようなポイントを伝えるべきか、事業者間でどのような取組を重要なポイントとすべきかという観点から意見交換を積み上げて作成したもの」であることなどを確認しました。

協働の着眼点〔業態横断版〕については、それぞれの業態の食品事業者が他業態と比較できる着眼点を俯瞰する「全体図」、それぞれの大項目についてなぜ重要なポイントと考えるかを説明する「項目の説明」から構成する案を提示しました。

ご参加頂いた皆さんからは、様々なご意見・ご質問を頂戴しましたので、議論の一部を以下に紹介します。

#### 【「協働の着眼点（第1版）」の位置づけについて】

- ① 資料の最初の位置づけの説明の部分に「事業者の規模の大小にかかわらず、誰もが使えるものを目指している」など、明確に説明を入れた方が良いのではないかと。
- ② 「協働の着眼点」を活用する際に、立場によって使い方が異なる可能性があるため、樹形図の全ての項目を必ず網羅する訳ではなく、ヒント集である樹形図の中から拾って加工し活用していくこともあるという説明の文章が必要ではないかと。

これらの意見に対し、事務局より以下の回答を行いました。

- ① 資料中の「協働の着眼点」の特徴説明の部分で、「さまざまな事業規模」という記述を加えた。様々な商品や事業形態・規模がある中で、皆さんに広く使っていただけるものを目指して作っていきたいと考えており、どのように表現するのが良いかは、一

つの課題として認識している。

- ② 伝え方には十分な配慮が必要と思う。現在行われている研究会の意見交換でも、関係者間で重要視している観点のミスマッチの例の話などがあがっている。また着眼点の活用の仕方については、研究会や来年度のパイロット事業などによってプロトタイプを増やしていきこのような事例を数多く積み上げて、効率的に情報のやりとりができるようにすることが今後の課題と認識している。

#### 【協働の着眼点〔業態横断版〕について】

- ① 16 の大項目には項目と説明の部分のみを表記して、詳細内容の部分は、必要に応じて見られるようにしてあれば良いのではないか。
  - ② 協働の着眼点〔業態横断版〕全体図において、「コミュニケーション」で括っている理由は何か。「コミュニケーション」を「協働の着眼点」に置き換えてはどうか。
- これらの意見に対し、事務局より以下の回答を行いました。
- ① 公開時には、すべての事業者に共通の〔業態横断版〕をまず示し、さらに詳しい取組を知りたい方には、〔業態別〕の樹形図を見ていただくという構成を考えている。
  - ② 以前は「取組事項」としていたが、チェックリストや尋問のような印象を与えてしまうので、コミュニケーションを円滑に行うことが信頼向上を実現するベースになるという観点で提案した。「協働の着眼点」とする議論もあったが、今後整理をしていきたい。

#### 【協働の着眼点〔業態別〕について】

- ① 協働の着眼点〔業態別〕には、「交差汚染」など、一般の人には難しい用語が使われているので、もっと詳しい用語集を作る必要があるのではないか。
  - ② 参考資料の用語集の「危害要因」の説明で使われている「ハザード」は、「危害要因」よりも難しいと思われる。
- これらの意見に対し、事務局より以下の回答を行いました。
- ① 難しい単語は記載しないようにしているが、一般的に食品事業者で使われている単語は、補足として用語集での説明を加えて記載している。
  - ② 「危害要因」や「ハザード」という言葉は、食品安全の説明には必要な用語と考えている。用語の説明の書き方については検討の上対応したい。

上記の議論を反映し、資料ならびに説明内容について今後も継続して検討を行うこととしています。

次回の作業グループでは、今回の議論内容に加え、FCP ホームページで公表した「協働の着眼点たたき台2次案」について一般の皆さんからいただいたご意見や、他業態での議論内容を踏まえ、「協働の着眼点（第1版）」のまとめ方について議論を行う予定です。

以上

## 製造業：作業グループ 第2回の概要報告

- ・日時 平成 21 年 3 月 4 日（水） 13:30～16:00
- ・場所 TKP 東京駅ビジネスセンター 1 号館 5 階 カンファレンスルーム 15A
- ・出席者 製造事業者 13 社、出席人数 14 人

### <議事次第>

1. 開会
2. 前回の作業グループ以降の経緯
3. 「協働の着眼点（第1版）」手引き、及び業種横断版について
4. 「協働の着眼点（第1版）」〔業種別〕について
5. FCP の今後の推進戦略について
6. まとめ

### <議事>

今回の製造業：作業グループでは、「協働の着眼点（第1版）」の位置づけや構成を示す「協働の着眼点（第1版）」手引きを作成したこと、また、フードチェーンをまたがる〔業種横断版〕と、食品事業者の製造、卸売、小売という業種ごとの〔業種別〕からなる「協働の着眼点（第1版）」について、たたき台2次案からの変更点を中心に参加者の皆さんに説明し、議論を行いました。

全体的な変更点としては、これまで、製造、卸売、小売の区別を「業態」としていましたが、これを「業種」に変更した点が挙げられます。

「協働の着眼点（第1版）」手引きについては、「協働の着眼点」の活用方法を具体的に示すために、基本的な取り扱い方と活用の場面の説明を記述し、また、今年度の「協働の着眼点（第1版）」策定までの経緯を記述したことなどを説明しました。

協働の着眼点〔業種横断版〕については、大項目「コンプライアンスの徹底」の説明文を一部修正したことなどを説明しました。協働の着眼点〔業種別〕については、前回の議論内容を受け、中項目の説明文をなくしタイトルのみにしたこと、業種固有の項目と業種共通の項目を識別する記号を追加したことや、ネットワーク参加者にヒアリングをした内容を具体例に反映したこと、製造及び小売において、小項目「適切な表示の実施」を追加したことなどを説明しました。

また、第1回戦略検討委員会の概要、「協働の着眼点」活用方策研究会の概要、今年度の成果を取りまとめたコンセプトブックの発行について、事務局から説明しました。

ご参加頂いた皆さんからは、様々なご意見・ご質問を頂戴しましたので、議論の一部を以下に紹介します。

#### 【「協働の着眼点（第1版）」について】

- ① 業種固有の項目と業種共通の項目を識別する記号の付け方に違和感のある箇所がある。もう少し整理をして欲しい。
- ② 大項目「製造における取組」において、「適切な賞味期限や消費期限を設定している」

という趣旨の小項目があるが、これは設計段階での取組なのではないか。

- ③ 「協働の着眼点」〔業種別〕の資料に、「※」がついた用語については用語集で説明している旨の説明をつけた方が良い。また、詳細版にも共通項目の識別記号をつけたほうが良い。

これらの意見に対し、事務局より以下の回答を行いました。

- ① 大項目同士、中項目同士、小項目同士を比較し、文言がまったく同じ場合に業種共通と整理した。ただし、ご指摘をふまえて、実質的に内容が同じであれば業種共通と判断するという考え方で整理したい。
- ② 食品の製造段階において表示を行うため、製造における取組に表示の項目を設定している。ご意見の通り、小項目の「賞味期限や消費期限の設定」は設計での取組なので、「設定された賞味期限や消費期限を表示する」という趣旨の内容に修正する。
- ③ ご意見の通りに資料を修正する。

### 【FCPの今後の推進戦略について】

- ① 地域活性化の観点では、様々な規模の事業者が FCP に賛同して前向きに取り組んでもらうためには、地域の支援者とのつながりを作ることによってメリットが得られるようにするなどの工夫を行う必要があると思われる。
- ② 来年度の取組について、「FCPに賛同」することの考え方として、自分から賛同していると宣言することを考えているのか、それとも、FCPの運営主体が承認する仕組みを考えているのか。
- ③ 現在ネットワークに登録している事業者が離れないようにし、ラウンドテーブルのような仕組みを立ち上げる時には協力してもらえようように工夫する必要がある。

これらの意見に対し、事務局より以下の回答を行いました。

- ① 地域の事業者を応援する金融機関等の関係者にも働きかけ、様々な規模の事業者が協働の着眼点を利用しやすい環境を整えていくことを考えている。
- ② プロジェクトへの賛同に関して厳格な評価をするつもりはなく、自主宣言が基本と考えている。ただし、自主宣言をしても、中身は何でもいいかという点は論点である。FCPの基本的な趣旨に反する使い方にはどう対応するのか、食品事業者の自主宣言をどう活用していくのか、優良事例をどう吸い上げて底上げにつなげていくのかなどは、今後の課題と認識している。
- ③ ネットワークに登録している事業者は、現在 FCP に興味を持っていただいている層であり、大変重要である。これらの事業者の中から、FCP に賛同してこんなことをしているという自主宣言をしてもらえようようにしたい。そのために、来年度の研究会やパイロット事業と連動させながら、ネットワークを強化したい。

上記の議論を反映し、第2回戦略検討委員会での議論を経て、「協働の着眼点（第1版）」として正式に公開する予定です。また、継続して検討すべき事項については、来年度以降、検討を続ける予定です。

以上